

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■小中一貫教育コース

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校・中学校・小中一貫校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■教職実践基礎コース

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 学校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員に必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、現代の教育課題に対応できる高度な実践力を身につけ、地域や学校における指導的役割を果たし得る基礎的な資質・能力を身につけるため、教職大学院までの6年間を見通した「教職実践基礎コース専門教育科目」として「教職に関する科目」の中に設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教科に関する科目」「教職に関する科目」を設置する。
7. 得意とする専攻分野の専門的知識が修得できるように、中学校の各教科の「教科に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■発達支援教育コース 子ども理解専攻

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校、幼稚園・認定子ども園の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と教科に関する指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、子どもと子どもをとりまく大人の心理や行動に対する省察や、問題の予防や対処のための専門的な知識や技能が身につくように、「教職に関する科目」として子ども理解に関する科目を設置する。
6. 小学校の教科内容に関する知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 幼稚園・認定子ども園の教員として必要な使命感や倫理観、および幼稚園教育に関する確かな知識と指導法が身につくように「保育内容の指導法」等を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■ 発達支援教育コース 特別支援教育専攻

【教育課程の編成】

1. 学生の学修すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 特別支援教育に携わる教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員として必要な使命感や倫理観、および生徒指導や学級経営等に関する確かな知識と指導法が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。
6. 教科内容に関する確かな知識が身につくように、「教科に関する科目」を設置する。
7. 特別支援教育に関する確かな知識と指導法が身につくように、「特別支援教育に関する科目」を設置する。
8. 課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践力を向上できるように、「教育実習」「教職実践演習」や「卒業論文」等を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。